

令和5年7月八戸市教育委員会定例会会議録

開催日時	令和5年7月26日(水) 午後1時30分		
場 所	市庁本館3階 議会第4委員会室		
出席者	教育長	齋藤	信哉
	教育委員	油川	育子
	教育委員	小瀬川	喜井
	教育委員	福井	武久
	教育委員	西山	康巳
事務局出席職員	教育部長	八木田	満彦
	教育部次長兼教育総務課長	鈴木	伸尚
	教育部次長	熊谷	誠二
	博物館長	小保内	裕之
	学校教育課長	寺井	健司
	教育指導課長	梅内	太郎
	社会教育課長	高橋	宣子
	是川縄文館副館長	松橋	広美
	総合教育センター所長	河村	雅庸
	こども支援センター所長	田端	修文
	図書館副館長	磯嶋	奈都子

開 会

(齋藤教育長)

定刻となりましたので、令和5年7月教育委員会定例会を開会します。

本日の議事録署名は、西山委員を指定します。

それでは、はじめに私から、主な会議・行事等について説明いたします。

主な会議・行事等

(齋藤教育長 資料に基づき説明)

(齋藤教育長)

これより議事に入ります。本日提出されております議案を審議します。

はじめに、議案第27号「八戸市教育振興基本計画策定委員会委員の委嘱について」事務局からの説明をお願いします。

議案第27号 八戸市教育振興基本計画策定委員会委員の委嘱について

(鈴木次長兼教育総務課長 資料に基づき説明)

(齋藤教育長)

ただいまの説明につきまして、御意見、御質問などがありましたらお願いいたします。

[質疑なし]

それでは、議案第27号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

[異議なし]

御異議がありませんので、議案第27号を原案のとおり決定いたします。

次に、議案第28号「令和6年度使用小・中学校特別支援学級用教科用図書の採択について」事務局から説明をお願いします。

議案第28号 令和6年度使用小・中学校特別支援学級用教科用図書の採択について

(河村総合教育センター所長 資料に基づき説明)

(齋藤教育長)

ただいまの説明につきまして、御意見、御質問などがありましたらお願いいたします。

[質疑なし]

それでは、議案第28号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

[異議なし]

御異議がありませんので、議案第 28 号を原案のとおり決定いたします。

次に、議案第 29 号「八戸市図書館協議会委員の委嘱について」事務局から説明をお願いします。

議案第 29 号 八戸市図書館協議会委員の委嘱について

(磯嶋図書館副館長 資料に基づき説明)

(齋藤教育長)

ただいまの説明につきまして、御意見、御質問などがありましたらお願いいたします。

〔質疑なし〕

それでは、議案第 29 号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

〔異議なし〕

御異議がありませんので、議案第 29 号を原案のとおり決定いたします。

以上で、議案の審議は終わりました。

次に報告事項にまいります。

はじめに「令和 5 年度第 1 四半期の業務報告について」は、事前に委員の皆さんから質問をいただいております。

【令和 5 年度第 1 四半期の業務報告について（質疑応答）】

(齋藤教育長)

13 ページ「研修講座」について、小瀬川委員からお願いいたします。

(小瀬川委員)

「市民公開講座」に関して御質問させていただきます。ホームページで見たところ、「市民公開講座」は市民と教職員を対象に開催しているようですが、どのような方々が参加されているか、またホームページ以外にはどのような形で案内等を行っているかをお伺いしたいと思います。

(河村総合教育センター所長)

小瀬川委員の御質問にお答えいたします。まずお答えする前に、資料の訂正をお願いしたいと思います。「市民公開講座」ではなくて「市民公開研修」という名称になります。申し訳ございませんでした。

「市民公開研修」ですが、市民及び教職員を対象として市民に広く声をかけており、一般市民を対象に現代的な諸課題の解決、そして教養を高めることを目的に開催しています。

案内につきましては、ホームページと合わせて市の広報を通じて募集をかけております。なお今年度につきましては、5 種類の研修を予定しています。そのうち第 1 四半期の資料に該当するものは、6 月 21 日、22 日の 2 日間の日程で開催した市民パソコン教室となります。資料に記載の通り、2 日間で各 8 人ずつ、計 16 人の市民の皆様に参加していただきました。

市民パソコン教室は、一般の大人の方々を対象として開催しております。中身としましては、ワードの使用法を中心に、一般的なパソコン操作について研修を行いました。受講者にアンケートを取っておりますが、そのアンケートからいくつか御紹介いたします。「理解しやすい内容だった。」「丁寧に指導していただき助かった。」「次回はエクセルをぜひ習いたい。」という方もいらっしゃいました。

年齢層は若い方からお年を召された方まで幅広い年代の方が参加しておりますが、どの方も十分満足しながら参加していたのではないかと感じております。

なお、第2四半期以降の予定につきましては、ホームページや広報等を活用して御案内していきますが、市民教育公開講座、英会話教室、プログラミング教室等も予定しております。

(小瀬川委員)

たくさん幅広い世代の方が参加し、かつ好評ということで大変素晴らしい講座だと思いました。土曜日の午後に開催されているということで、その点もニーズに合っていると思いながら見せていただきました。

こういう講座を通じてスキルアップや困り感の解決ができるほか、他の方々と情報共有ができるということで大変素晴らしいと思いました。ぜひ参加してみたいと思います。

(齋藤教育長)

関連質問ございませんか。

〔質疑なし〕

それでは、次の質問に移らせていただきます。13 ページ「教育の情報化推進事業」について、福井委員からお願いいたします。

(福井委員)

「令和5年度デジタル教科書実証事業」に関して御質問させていただきます。学校を視察しますと、デジタル教科書のようなものを使っている様子が見受けられます。まだ始まったばかりだと思うのですが、現段階で何か課題等がありましたら、紹介していただきたいです。

(河村総合教育センター所長)

福井委員の御質問にお答えいたします。まず始めに、「デジタル教科書実証事業」の概要についてお話をさせていただきますが、この事業はデジタル教科書の教育効果の検証及び普及促進を目的として、令和3年度から文部科学省が実施しており、当市でも事業を始めた頃から参加しているものでございます。今年度の事業につきましては、来年度からの導入が決まっている英語について、すべての小学校5・6年生、そして中学校全学年を対象に提供しております。

また、算数・数学について一部の小中学校を対象に提供するものでございまして、当市においては、算数は小学校42校中23校、数学については中学校24校中15校が対象となっております。数多くの学校から希望があったのですが、文部科学省のほうから今お話したような校数の提供ということで話がきておりました。

資料にありますように、5月から事業を開始しておりますが、まず4月の1ヵ月間を使って児童生徒がタブレットから使用できるような使用環境を整えて、5月から運用を開始しているところです。

そして委員の御質問の活用状況につきまして、5月から約2ヵ月程度の期間が経過しましたが、活用状況を改めて確認しました。確認といっても学校が夏休みに入っており電話等で問合せができませんでしたが、幸いログイン情報からデータにより活用状況を見ることができましたので、その様子をお知らせいたします。英語については、小学校が約7割、中学校は約9割の学校で活用されている状況でございますが、それはつまり現段階では全部の学校ではないということになります。それから算数・数学については、小・中学校ともに対象となった学校のうち約8割程度の学校で使用されている状況でございます。

活用例を少し紹介いたしますと、算数・数学では図形領域において添付されている図形を自由に切ったり貼ったりして、試行錯誤を繰り返しながら学習を進めることができるという話を聞いております。また、教師が特別な準備をすることなく、子どもたちがタブレット上で操作して話し合いながら解決に向かうことができるという話を聞いております。また英語については、音声機能が充実しているので、再生機能を活用して一人一人の習熟度に合わせて再生速度を変更しながら活用しているとのことです。

一方、課題としましては、先ほど使用している学校数の話をしましたが、学校による使用頻度の違いが大きいこと、そしてまだまだ積極的、日常的な活用には至っていないことが挙げられるかと思えます。福井委員が先ほどお話ししたように、学校訪問での授業の様子を拝見しますと、一人一台端末そのものについては導入してから3年経ちますので、かなり授業のほうで積極的、効果的に活用されてきているものの、デジタル教科書についてはまだ活用が十分進んでいる状況ではないと捉えております。今後、市教育委員会による学校訪問や各種研修において、デジタル教科書の活用について取り扱うことで、先生方に周知していきたいと思っております。

あわせて先日、文部科学省から様々な活用例が示されている「学習者用デジタル教科書の活用による指導力向上ガイドブック」が出ましたので、早速各学校に周知を図り、活用促進に向けて進めてまいりたいと考えております。このデジタル教科書でございますが、児童生徒の特性、学習内容等に応じて、もちろん今ある紙の教科書とともにハイブリッドで活用していくように、これからいろいろ支援してまいりたいと考えています。

(福井委員)

デジタル教科書はこれからおそらく増えていき、またいろいろな問題が起きてくるかと思えますので、国の方針に従って改善していただければよいと思います。

また推進事業と話は変わりますが、せっかく子どもたちがデジタル端末を持っているので、例えば、今増えている水難事故に関連した動画を見せるといった活用もよいのではないかと思います。保護者と一緒に行かなければいけない、あるいは危険な場所に行つてはいけないなど、言葉と活字ではどうしても伝わらない面があると思います。そういった離岸流対策などを長期休暇前に見せるなどすればよいのではないかと個人的に思っていたので、もし検討していただければありがたいと思っております。

昨年、「未来につながる防災ノート」というすばらしいものを作ったと思いますが、未来につながるということは命を守ることに繋がると思うので、メディアなど視覚を利用した教育も大事なのではないかと思います。

(齋藤教育長)

関連質問ございませんか。

[質疑なし]

それでは、次の質問に移らせていただきます。13 ページ「理科観察実験支援事業」について、福井委員からお願いいたします。

(福井委員)

この事業も話を聞くと、やはり非常に助かっているという学校が多いので、今の段階でどういう状況なのか、また課題等がありましたら御紹介願いたいと思います。

(河村総合教育センター所長)

福井委員の御質問にお答えいたします。「理科観察実験支援事業」は平成 25 年より継続して行っているものでありまして、毎年度学校から大変助かっていると感謝の言葉をいただいているところでございました。

今年度の現状について、昨年度に引き続き今年度も 4 名のアシスタントを任用しておりまして、学校からの要請に応じて派遣しております。活動状況は、まず 4 月に各学校からの申込みを受け付けて、5 月の連休前までに支援計画を立て、連休後の 5 月 4 日から派遣を実際に開始しております。

派遣回数については、第 1 四半期 6 月までに市内 42 校中 35 校に延べ 145 回派遣することができております。そしてアシスタントの派遣により学校現場からは「観察実験の内容が充実した。」「理科好きの子どもが増えた。」「先生方の業務の負担軽減にもつながっている。」という声などもいただいております。さらに嬉しいことに、「経験の浅い若手教員が適切な観察実験の実施方法を学びたい。」ということで、現在派遣している 4 名のアシスタント全員が小学校の退職教員となっており経験豊かな方々でございますので、大変効果的にこの事業が図られているものと考えております。

ただし課題もございまして、第 1 四半期中の派遣依頼は 317 件ございましたが、実際に派遣したのは 145 回となっており、半数程度しか対応できていないことが現状の課題であると捉えております。毎年度学校からの要望も多くなってきているので、アシスタントの増員についても今後検討してまいりたいと考えております。

(福井委員)

この事業は小学校が対象ですが、最近いろいろなニュースを見ると、大きな事故にはつながっていないのですが、中学校での硫化水素の事故や仙台市でアンモニアの紛失などを見かけます。そういう事例があると、実験に対して引けてしまうとかやらないようになってしまうのではないかと私は心配しております。なぜかという、硫化水素は毒ガスですが、匂いを知ってないと実際にその匂いがしたときに逃げられないわけです。将来的なことを考えると硫化水素の匂いくらいは知っておかなければいけないのではないかと考えています。また、例えば“混ぜるな危険”というのはよくありますが、あれも塩素や塩化水素というガスだと思うのですが、そういった鼻につんとする匂いも経験しておかないといけないと思います。将来そういう匂いがする場所に入ったときに、風通しよくしなければいけないにもかかわらず、窓を

閉めきってしまうことが想定されます。したがって、こういう事故があった場合は、更に安全配慮義務を果たすような対策をしながら実験等に臨んでいただければ大きな事故につながらないと思うので、将来命を守るために取り組んでいただきたいなと思います。

もう一点は、先ほどデジタル端末の関係で、今の子どもたちには視覚を利用した教育が分かりやすいとは言ったのですけれども、やはり実験は五感に訴えますので、デジタルを取り入れながら臭覚や触覚といった五感で感じるような実験というのも大切にしていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

(齋藤教育長)

この「理科観察実験支援事業」は国からの補助事業として、2分の1ですか。

(河村総合教育センター所長)

およそ3分の1です。

(齋藤教育長)

対象は小学校のみですか。

(河村総合教育センター所長)

小学校のみです。

(齋藤教育長)

資格か何か必要ですか。

(河村総合教育センター所長)

特に資格は必要ないということになっております。

(齋藤教育長)

実は6月議会にて、学校現場の需要が大変多いので増員していったらどうかという要望も受けていたもので、これから総合教育センターを中心に少し検討していきたいと考えています。

関連質問ございませんか。

[質疑なし]

それでは次に「令和5年度第2四半期の主な事業予定について」の質問を事前にいただいております。1ページ「八戸市教育振興基本計画」について油川委員からお願いいたします。

(油川委員)

「八戸市教育振興基本計画」について現段階でお話しをいただける範囲で結構なのですが、次期計画の目指

すべき方向性などについて伺えたらと思います。

(鈴木次長兼教育総務課長)

油川委員にお答えいたします。

まず、第2期の計画が今年度で終了するというところで、今回新たに次期計画を策定することになります。策定をする体制ですが、まず検討委員会というものがあまして、これは策定に関わる内容について協議する事務局内部の組織であり、今この場にいる課長級以上の職員がメンバーです。先ほど審議いただいた策定委員会が、学識経験者や公募者等で構成されており、事務局が作った計画案に対する意見や提言をしていただくこととなります。このやりとりを何回か繰り返し、その後パブリックコメントを経て、教育委員会において審議決定、そして市長および市議会に対して報告されるという流れになっております。

そして先ほど策定委員会の委員を議決していただきましたけれども、第1回の策定委員会を8月8日に予定をしております。従いまして、大変残念なのですけれども、現在の時点でお知らせできるものはございません。

ただし、今年の6月に国の第4期教育振興基本計画というものが策定され公表されております。少なくとも、これを参酌・踏襲した上で八戸市の実情に応じた内容にしていくということになります。

それから、市の一番上の計画である総合計画と整合性を図る必要があります。これらを踏まえた上で、つい先日計画の原案を作成したところではございますが、策定委員会のときに諮るものですので、現時点はまだ表に出せない状態でございます。

(油川委員)

丁寧な御説明ありがとうございました。私からは意見を述べさせていただきたいと思います。今の御説明の中にもありましたように、国から主な指針というものが示されて、それを踏まえて八戸の実態に即して今後検討されることと思います。今回の次期計画においては、最も重要視されているのが「日本社会に根差したウェルビーイング」であると思います。

作成に当たっては、先ほど議案の27号において議決された皆様とたくさん議論を重ねていただきまして、身体的・精神的な健康の向上を柱に、八戸市民全員の羅針盤になるような計画であることを願いますので、大変な御苦勞をおかけすると思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

(齋藤教育長)

関連質問ございませんか。

[質疑なし]

それでは、次の質問に移らせていただきます。3ページ「八戸市地域スポーツ・文化活動検討協議会」について、西山委員からお願いいたします。

(西山委員)

「八戸市地域スポーツ・文化活動検討協議会」に関連して、現在の中学校における部活動の地域移行に係る取組の現状について、お伺いしたいと思います。

先の中学校体育大会、市の大会も、県大会もクラブチームの参加が認められておりました。これまでは、基本的に中学校で部活動が行われていた状況で、今後地域やクラブにお願いしようという動きになっていくと思うのですが、現段階でどのくらいの学校で地域移行を視野に入れた取組が行われているものなのか。それから、この検討協議会の中で今後どのように展開していきたいと考えているのかについてお伺いできればと思います。

(寺井学校教育課長)

西山委員の質問についてお答えいたします。現在、部活動の地域移行に向けて学校でどのような取組がされているかということですが、当市において現時点では、学校独自で地域移行に向けて取組を進めているという情報は、今のところ入ってきておりません。当市では、令和4年度に作成しました「八戸市における中学校の地域スポーツ・文化活動の在り方について」というリーフレットにおきまして、令和5年度の部活動は休日も含めこれまでと同様に、各中学校において学校主体で運営・実施する方針を示しており、検討協議会において、今後の方向性を協議している段階でございます。

したがって、各学校はこの検討協議会の動向を注視している状況にあります。ただし、各学校によりましては、例えば生徒数等の関係で、部活動の再編つまり部活動の数をどうするか、合同チームをどうするかなどについて、学校間で協議していると聞いております。この検討協議会には中学校長会からの代表も参加しておりますので、引き続き情報交換をしながら進めて参りたいと思います。

しかしながら、個別に学校部活動以外の民間の団体に所属して活動している生徒もおります。先ほど教育長からの報告及び西山委員からの御紹介がありました通り、先の中学校の夏季大会、体育大会では、種目によってクラブチームでの参加が認められました。

当市では、3種目4団体が参加しており、いずれも既存の団体からの参加でございました。種目別に見ますと、剣道が1団体、体操が2団体、水泳が1団体でした。こちらを県内全域で見ますと、八戸夏季大会の予選に登録した団体数は53団体だったそうです。

しかしながら、そのうち実際に参加できたのは14団体ということで、先ほど教育長が言いましたけれども、実際クラブチームで参加するというのは、いろいろ乗り越えなければならないものがあると感じておりました。参考までに、実際参加した団体数の内訳は、東青が6団体、三八が5団体、下北が3団体となっております。検討協議会におきましては、今後この既存の団体との関連を含めながら、地域移行の方向性を検討してまいりたいと思います。

また、今後の検討協議会の方向性ですが、第1回目に出てきた課題が、地域移行に対してのイメージが各委員によって様々だったということです。八戸市としてはどういう形をイメージしていくかを共有することがまず一つ課題として出ましたので、第二回以降、そのイメージを共有した上で、従来の課題である運営母体をどうするのか、指導者の確保をどうするのかというところを、ニーズ把握のためのアンケートも含めて実施していく予定でございます。

(西山委員)

今までずっと部活動を学校主体となってやってきたわけですから、これを地域のほうにというと、なかなかおいそれといかないところもありますし、地域移行によってまた新たな課題も生まれてくるのではないかと思います。

働き方改革という観点から、教員の負担を軽減させるという意味合いも含んでおり、そういったところも取り組まれていると思うのですが、進め方によっては逆に学校に掛かる負担が大きくなってしまっているのではないかと、いうことを少し心配しているところです。したがって、慎重に協議して、対策を検討して実施の方向に進めていただければと思います。

今後たくさんの競技種目において、クラブチームの参加希望が増えてくると思うので、そこも含めて適切な御対応をお願いしたいと思っています。

(齋藤教育長)

この部活動の地域移行については、今西山委員からもお話があったとおり、なかなか難しい問題だと思います。例えばスポーツ関係でいうと、70年以上も続いた中体連の仕組みをたった2年3年でそちらに移行していくことになるため、八戸市だけではなく、それぞれの自治体も同じような悩みを抱えていると思います。そういう中で、もちろん働き方改革ということもあるでしょうけれども、やはり一番大事なことは、子どもの目線で考えた時に、どうしても集団スポーツでチームを組めないことや、あるいは選択肢が少ないことなど、そういった課題を解決していくということを前提にして、話し合いを進めていかなければならないと考えていました。

ただし、先ほど学校教育課長からもあったように、地域移行のイメージについて委員がそれぞれ違った考えを持っていることが第1回の検討協議会で明らかになったということでした。こういった部分をしっかり学校現場、子どもたち、そして保護者のほうにもしっかりと周知した上で、その上で実態把握を進めていかないと、いろいろな課題が出てきて収集がつかなくなるのではないかと思います。

したがって、今は実態把握に向けてアンケートの内容をもう1度精査する方向で検討協議会を開催しようと考えているところです。これからも様々な課題が出てくるとは思いますが、どうぞ委員の皆様からいろいろな御指摘、御指導いただければありがたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

関連質問ございませんか。

[質疑なし]

それでは、次の質問に移らせていただきます。5ページ「いじめの問題等に関する対話集会」について小瀬川委員からお願いいたします。

(小瀬川委員)

コロナ禍の影響もあり、ここ数年オンラインで開催されていたと思いますけれども、今年是对話集会の開催ということで、どのような内容で開催される予定なのかということをお伺いできればと思います。

(梅内教育指導課長)

小瀬川委員の御質問にお答え申し上げます。本対話集会は平成6年度に第1回が開催されて以来、今年度で29回目を迎えます。コロナ禍の影響もあり、令和2年度から4年度までオンラインで開催をしてまいりましたが、今回は4年振りに対面で開催することとなりました。参加者につきましては、各学校5、6年生の代表児童2名と担当教員1名となっております。

内容につきましては、はじめに開会行事で教育長より参加児童全員に向けて、いじめの未然防止についてのお話があり、その後8つの分科会に分かれて、「いじめのない笑顔あふれる学校づくり、広めよう友達の輪」のテーマのもと、いじめ根絶に向けて話し合いが行われます。その話し合いの中で、今回新たな取組として児童が作るいじめゼロに向けた行動目標、マイアクションエイトを作成することといたしました。お手元にございます資料を併せて御覧ください。

こちらを作成する際ですが、違いを認め合う安全安心な風土作り、ストレスへの対処方法、助け合う言葉や行動、SOSの出し方等のポイントを踏まえ、話し合いを進めることとなっております。その後、全体会において、各分科会で話し合われた内容と、マイアクションエイトについて発表が行われ、この周知や活用方法について話し合います。

最後に、いじめの未然防止に向け児童一人一人の意識の醸成を図るために、平成8年度に本対話集会で作成したいじめ根絶宣言と、今回のマイアクションエイトを全員で唱和します。マイアクションエイトを契機に、各学校においていじめの未然防止の輪が広まるよう、市教育委員会では本集会で話し合われた内容等の周知と活用に努めてまいります。

(小瀬川委員)

日頃より先生方もいじめを未然に防止するための手立てや減らしていくような御指導をいただいていると思いますけれども、子どもたちが実際に自分たちで考えて、その場の空気を感じたものを学校に持ち帰って、学校で周知・活用してくれることを非常に期待しております。

また、参加した子どもたちがやはりその場で精神的な部分で成長することも多くあると思いますし、実際は先生方の御指導も大事ですが、子どもたちのいじめにつながるような問題が発生した時に、生徒児童自身の対応や心の持ち様というものもすごく大事だと思っており、このいじめ問題に関する対話集会は非常に大切な時間を子どもたちが体験する場であると思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

また、最近ではやはりネットやLINEなど、これまでの私たちが小さい頃とは違ったいじめの問題が発生することも多いかと思っておりますので、その点も踏まえてどうぞよろしく願いいたします。

(齋藤教育長)

関連質問等ございませんか。

油川委員お願いいたします。

(油川委員)

質問ではなく意見を少し述べさせていただきたいと思っております。児童生徒が自ら命を絶つという問題についてです。全国において、自ら命を絶つ児童生徒が減らずに、昨年過去最多の515名が大変悲しいことに亡くなっています。今年4月に限ると、過去5年間で最も多い48名という深刻な状態が続いていると伺っております。

八戸市はこのような御努力もありまして、そのような事件に直面はしておりませんが、全国的にはそういう大きな問題も抱えているところがございます。命を絶った児童生徒の全員がいじめが原因だというわけではないのですが、八戸市でこのような対話集会を活発に行っていたら、その輪が全国に広がってけばよいと思っております。皆様の御努力大変心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

(齋藤教育長)

それでは、次の質問に移らせていただきます。7ページ「海洋研究開発機構研究成果活用促進事業」について西山委員からお願いいたします。

(西山委員)

それでは「海洋研究開発機構研究成果活用促進事業」について御質問申し上げます。出前授業について中学校が非常に多く実施しているということで、嬉しく思い質問することにしました。

中学校にあってはキャリア教育の一環としてということですが、八戸市の地域性を捉えた特色ある取組だと思っています。そこで、現在のコロナ禍において、グッドジョブウィークなども思うようにできないでいる状況の中、こうした JAMSTEC の出前授業はかなり成果が出ているだろうと思っておりましたので、成果について伺います。それから、もし後期もこのような形で出前授業があるのであれば、今後の予定などについても伺いできればと思っておりました。

(高橋社会教育課長)

西山委員の御質問にお答え申し上げます。社会教育課では、子どもたちの海洋科学技術に対する理解を深めることを目的に、また中学生にあってはキャリア教育の一環といたしまして、JAMSTEC の協力のもと平成 29 年度より市内小中学生を対象に出前授業を実施してまいりました。

今年度におきましては、全 6 校で実施したわけですが、そのうち 4 校が中学校となっております。特に今年度は、JAMSTEC むつ研究所の小椋徹也氏を講師にお迎えいたしまして、「海を研究する科学と技術そして携わる人たち」と題しまして、地球深部探査船のちきゅうや有人潜水調査船しんかい 6500 など、JAMSTEC が有する調査船に加えて、深海に関すること、また深海生物に関すること、気候変動、深海に沈んでいるごみの話など、調査の中でも私たちの生活に密着するお話もたくさんいただいたところがございます。

特に今回の講師の方は子どもの頃から船が大好きということで、祖父母の家に遊びに行ったときにその船を眺めていたというお話がありまして、そういったことがきっかけで結果として、しんかい 6500 のパイロットになったという話もある方でした。

中学校で出前授業を実施した際にも、そういった研究を踏まえまして、生徒からしんかい 6500 の操縦に関することや、この度海外で起きた潜水艇タイタンの事故の話などの質問があり、いろいろとキャリア教育にもつながる、多方面からのアプローチができたのではないかと考えております。

こういった JAMSTEC のような研究機関は、学問の海洋学とか地質化学、生物学、地球科学それからデータ解析などの研究に関する専門家のほかに、パイロットや船の操縦のこと、それから建物とか設備の専門家など、様々な人が働いているということを実感していただけた面もあると感じておりました。

また来年度以降も JAMSTEC の協力のもと出前授業を実施してまいりたいと考えております。ただし今年度につきましては、今回の 6 校で今のところ終了ということで考えておりましたが、次年度以降の実施方法

等を引き続き検討しながら、より多くの中学生のキャリア教育の一環として学んでもらえるように、今後についても検討してまいりたいと考えています。

(西山委員)

ありがとうございました。非常に中身が専門的で特色のある取組についての話になっていくと思うので、八戸市という市の特色を模索して、これからも各学校に周知して積極的に実施していただきたいと思います。

各校の感想や成果を他の学校に紹介する機会もあってよいのではないかと感じていましたので、今後とも事業を発展させていけるようよろしくお願いいたします。

(齋藤教育長)

私は4月11日に行われた吹上小学校の4年生の授業、それから午後に行われた下長中学校の2年生の授業の参観に行っていました。小学校で大変感心したのは、小学校4年生の授業なのですが、ある女の子が水圧の話をしたのです。学校の先生に聞いたらまだ水圧というものは勉強していないということで、そういった知識をもう既に持っている子どもがいたということでした。

それから中学校では、男子も女子も大変活発に意見質問を発表することが多かったです。特に女子の生徒が海の生物や深海のものについて、すごく関心を抱いていたことに驚きました。講師の先生も小学校バージョン、中学校バージョンといろいろな内容を変えながら、大変興味深い、子どもたちが関心を持つようなそういう授業をしていただいていたと思います。できれば本当はもっとたくさんの学校がこういう出前授業に参加してくればよいというのを考えながら行ってまいりました。大変良い授業だったと思いました。

(小瀬川委員)

JAMSTECつながりで、私は昨日開催された市民大学講座を受講いたしましたけれども、データが本当に専門的で、講師の先生もお話していました本物を教えてくれるものの美しさを感じました。本当にデータや映像など本物を見せていただけて、専門的なことなのに非常に分かりやすく興味深く受講することができました。キャリア教育の一環として推進事業が行われているということで、子どもたちがそういったことに触れる機会があるということはすごく素晴らしいことだと認識したところでした。

(齋藤教育長)

関連質問ございませんか。

[質疑なし]

そのほか、事務局から報告事項はありますか。

[なし]

事務局からは以上のようなようです。それでは最後に「その他」ですが、委員の皆様方から何かございますか。

(小瀬川委員)

少し御紹介させていただきたいお話があります。

昨年の秋に福井委員から、市内の児童生徒が横断歩道を渡る際に停止した車に対してお辞儀をするというお話をされていました。ちょうど今月の青少年八戸かがみにも、その内容に触れてありましたけれども、それに似たような市内の中学生の男子生徒の行動で私が凄く感銘を受けたことがあったので、ぜひ紹介させていただきます。

今年、今月の15日16日に中心街で4年ぶりに七夕祭りが開催されました。土曜日の1日目はあいにくの雨模様だったので次の日の日曜日に想定以上の人が来場されたのです。その中で、中心街にごみ箱を設置しておらず、また空き店舗等も多いので、ごみはどうなるだろうかという話が事前出ていたのですが、そのすごい人ごみの中に市内の中学生の男子生徒3人組がごみ袋を持って、「ごみありませんか。」と歩き回ってくれていました。

よく学校訪問等で主体的という言葉が出るのですが、誰から言われるわけでもなく、どうしてこれを始めたのか理由を聞いたら、「なんか楽しそうだったし、やろうかって友達となったのでやっています。」ということでした。本当に普段から親御さんはもちろん、先生方が様々なところで主体的に何かをするということを教えてくださっていることの賜物ではないかと思ひ、また、そういう姿を見て大人として考えさせられるところも多くありました。大変爽やかな風が吹いたということで、コミュニティラジオ等でも紹介されておりましたので、この場でもお話させていただきました。

(齋藤教育長)

大変良いお話でした。御承知の通り三社大祭の初日に、第二中学校の子どもたちが朝のボランティアで清掃活動をやっていました。その他にも、南郷区の島守中学校では虚空蔵の清掃を何十年もずっと継続しています。今のようなボランティアの奉仕作業も、こういう輪がどんどん広がって子どもたちの中で自主的自発的に進んでいけばよいという思いがあります。

閉 会

これもちまして令和5年7月教育委員会を終了いたします。お疲れ様でした。

(午後2時53分閉会)